

2014 (平成26) 年12月13日  
全3枚 (本紙を含む)

報道関係各位

学校法人 日本女子大学

---

## 第十回「平塚らいてう賞」贈賞式を開催

奨励1件・・・岩田 三枝子 氏

(東京基督教大学 大学院 神学研究科 神学専攻 博士後期課程)

---

日本女子大学では本日午後、第十回「平塚らいてう賞」贈賞式を本学新泉山館会議室（目白キャンパス）で開催し、日本女子大学 佐藤和人学長より、奨励を受賞した岩田三枝子氏（東京基督教大学 大学院 神学研究科 神学専攻 博士後期課程）に対して賞状と副賞賞金を贈呈いたしました。

「平塚らいてう賞」は「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対して、顕彰と奨励をはかることを目的に創設されました。

募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えることや今後の活動が進展することを願い、全国で研究や活動を行っている個人または団体を対象としています。十回目の今回は、顕彰4件、奨励4件の応募がありました。顕彰はこれまで際立った功績をあげた方へ授与し、奨励は研究や活動を継続的に行っている方、あるいは新たに取り組もうとしている方に授与します。今回は厳正な審査の結果、奨励受賞者1名を決定しました。

本賞は平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会を作るために行うものであり、今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の本賞への応募を期待しております。

お問い合わせ先

日本女子大学 総務部 広報渉外課 「平塚らいてう賞」事務局

電話：03-5981-3163

FAX: 03-5981-3164

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY  
THE RAICHO HIRATSUKA PRIZE 

日本女子大学学長 佐藤 和人 挨拶

平塚らいてう（日本女子大学校家政学部3回生）の卒後100年を記念して「平塚らいてう賞」が創設されました。

本賞は平塚らいてうの遺志を尊重し、「男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動」の顕彰と奨励をはかることを目的としています。

平塚らいてうは青鞥を創刊、婦人参政権運動に力を尽くし、さらには平和運動のシンボルとして多大な足跡を残しています。その行動はまさに創立者成瀬仁蔵の「魂の子」と称され、日本女子大学との強い結びつきがあります。

本年は平塚らいてう賞十回目の贈賞式を迎えました。岩田三枝子氏の「大正期における婦人運動―覚醒婦人協会と賀川ハルを中心に」が「奨励」として選ばれました。大正デモクラシー期の婦人運動研究に新たな視点からアプローチするものであり、平塚らいてう賞奨励にふさわしい研究・活動であると高い評価を受けました。今後のさらなる発展を期待したいと思います。

～第十回「平塚らいてう賞」贈賞式リーフレットから～

## 第十回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第十回受賞者の選考にあたり私どもは、候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の業績に対して「奨励」に値するとの結論に達しました。

ご業績の特色や褒賞に値する観点は以下の通りです。

### <奨励>

受賞者： 岩田 三枝子 氏

研究テーマ： 「大正期における婦人運動―覚醒婦人協会と賀川ハルを中心に」

受賞理由： 明治・大正・昭和期を通じて、社会事業家・思想家として著名な賀川豊彦の妻、賀川ハルに焦点をおいた研究である。女性の解放や女性労働の改善・協同組合の必要性を主張した雑誌『覚醒婦人』の発行や講演会などを通じて、覚醒婦人協会の活動を明らかにしている。

従来注目されていなかった協会への着眼、その中心となったハルの信仰や思想を対象とすることで、大正期の女性運動に新しい展望を与えた。

同時期の欧米女性解放の動向や日本の女性活動家、市川房枝、平塚らいてうらとの関係などの解明も期待できる。

## 第十回「平塚らいてう賞」＜奨励＞ 受賞スピーチ（要旨）

岩田 三枝子 氏（東京基督教大学 大学院 神学研究科 神学専攻 博士後期課程）

本研究は明治・大正・昭和期を通じて、社会事業家・思想家として著名な賀川豊彦の妻である賀川ハル（1888-1982）、およびそのハルが中心発起人として展開した、婦人運動である覚醒婦人協会（1921-23）の活動と思想を、女性・キリスト教信仰・公共的貢献といった視点から読み解き、現代における男女共同のあり方、また女性の公共圏における参加の可能性への提言を目指すものです。

平塚らいてうと賀川ハルの初めての出会いは、神戸のスラムに住み込み活動を行っていた賀川豊彦・ハル夫妻のもとをらいてうが訪ねた1919年であったと思われます。らいてうとハルの出会いから約100年後、らいてうの母校・日本女子大学において、ハルの母校・共立女子神学校の伝統を受け継ぐ東京基督教大学における研究を「平塚らいてう賞」奨励賞に選んでいただいたことは、大きな光栄です。

らいてうとハルの100年目の再会を喜びつつ、「励まし」の賞名に応えられるよう、良き研究を積み重ねてまいりたいと思います。

以上